

解説

大阪市における官民連携による海外展開支援

かない よしひで
金井 容秀大阪市建設局下水道部
下水道資源循環課・課長代理

1 はじめに

急速な経済発展を遂げている多くの国や地域では、かつて大阪市（以下、本市）が体験した水環境の保全や浸水対策、下水汚泥処理といった課題に直面しており、その解決に向けて、本市の経験や知見を活かした支援が求められています。このような状況を踏まえ、本市は下水道分野における海外展開を進め、開発途上国等が抱える水環境問題の解決に貢献し、持続可能な開発目標（SDGs）の達成にも寄与することをめざしています。さらに、この取り組みを通じて大阪の国際的なプレゼンスの向上を図るとともに、官民連携による大阪・関西地域の経済活性化や本市職員の人材育成の推進にもつなげていきたいと考えています。

本稿では、ベトナム国において、本年度新たに技術支援を開始したフエ市や、現在技術支援を実施中のホーチミン市での官民連携による取り組みなどについてご紹介します。

2 ベトナム国フエ市での取り組み

2.1 フエ市の概要

フエ市は、ベトナム国土の中部に位置し、昨年1月1日に、フエ省全域（人口約120万人）が同国で6番目の中央直轄都市として再編されました（図-1）。市の

中心部は、19世紀初頭から20世紀半ばにかけてグエン王朝の都として栄え、この歴史的価値が評価され1993年にはユネスコ世界文化遺産「フエの建造物群」に登録され、現在では観光都市として発展し、毎年国内外から約390万人の観光客を迎えてます。市街地の中心を流れるフォン川を境に、南側には店舗やホテルが立ち並ぶ新市街地区、北側には王宮を中心とした旧市街地区が広がり、独自の街並みを形成しています（図-2）。

近年、フエ市では人口や観光客の増加により、生活排水や病院・ホテル等の施設からの排水が増え、フォン川や王宮の城郭内を流れる水路の水質が悪化していま



図-1 ベトナム広域

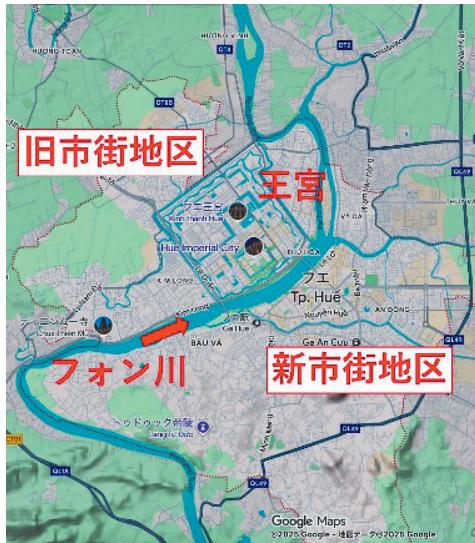


図-2 フエ市中心部

す（写真-1）。さらに、市街地は主に平坦な低地に位置しているうえ、気候変動の影響や水路網の不備・能力不足も重なり、年間2～3回ほどの河川氾濫などによる浸水被害に見舞われ、市民生活や観光への影響が多くあるような状況となっています（写真-2）。



写真-1 家屋からの水路への未処理排水



写真-2 王宮の洪水被害（2025年10月）

2.2 JICAによる水環境改善事業

（独）国際協力機構（以下、JICA）は2008年から新市街地区における汚水処理能力の向上および浸水被害の軽減をめざし、有償資金協力による下水道施設等の整備事業を進めてきました。その結果、延長240kmの合流式管きよや、7箇所の中継ポンプ場、日量3万m³の処理能力を備える下水処理場1箇所などが整備され、2019年よりアンドン下水処理場が稼働しています（写真-3）。



写真-3 JICA事業で整備されたアンドン下水処理場

2.3 下水道分野における

技術協力に関する協議議事録の署名交換

施設の稼働に伴い、運用上の課題が徐々に明らかになりつつある中、本市は2025年3月14日に、それらの課題と対応策を検討することを目的とした、フエ市主催の「下水道の課題と対応策に関するワークショップ」に参加しました。同ワークショップでは、フエ市より、下水処理場から発生する汚泥および処理水の資源活用、ならびに下水道整備地区における下水道接続率の向上に関する課題などが報告されました。

これに対し、本市は「フエ市と大阪市の下水道の共通課題および大阪市の課題解決の取り組み」について発表し、本市の有する知見をフエ市と共有しました。このことを契機として本市とフエ市との信頼関係を深め、昨年6月6日には、本市建設局とフエ市建設局との間で「下水道分野における技術協力に関する協議議事録」の署名交換を行いました（写真-4）。今後も引き続き、都市間交流のさらなる推進と良好な友好関係の構築に努めるとともに、技術協力に関する覚書の早期締結をめざして取り組んでいきます。